Microsoft Application Virtualization 4.5

ADM テンプレート

ホワイト ペーパーの説明

このホワイト ペーパーは、管理者を対象に、グループ ポリシーを使用して App-V Client の構成を展開するために必要な手順を示すことを目的としています。App-V Client ADM テンプレートは、最も一般的な構成の App-V Client の設定を管理者が集中管理できるようにするために作成されました。ADM テンプレートを適切なクライアントに実装するには、Active Directory のグループ ポリシーに関する作業に関する知識が必要です。具体的な作業については、このドキュメントでは説明しません。

Copyright © 2008 MICROSOFT CORPORATION

[はじめに 3](#_Toc211850337)

[設定 (Preference Setting) 3](#_Toc211850338)

[セットアップの重要な考慮事項 4](#_Toc211850339)

[App-V Client ADM テンプレートのインストール 5](#_Toc211850340)

[ADM テンプレートの msi ファイルのダウンロード 5](#_Toc211850341)

[ADM テンプレートのインストール 5](#_Toc211850342)

[グループ ポリシー オブジェクトへの ADM テンプレートのインポート 5](#_Toc211850343)

[グループ ポリシー エディタで設定を表示するための構成 5](#_Toc211850344)

[Application Virtualization Client 4.5 ADM テンプレートのレジストリ設定 7](#_Toc211850345)

[カテゴリ : 通信 8](#_Toc211850346)

[カテゴリ : アクセス許可 13](#_Toc211850347)

[カテゴリ : クライアント インターフェイス 16](#_Toc211850348)

[まとめ 18](#_Toc211850349)

[関連情報 18](#_Toc211850350)

# **はじめに**

管理用 (ADM) テンプレートには、Application Virtualization クライアント コンピュータで共通して変更される設定として識別されたレジストリ構成が含まれています。App-V ADM テンプレートを使用すると、管理者はグループ ポリシーを使用して、App-V クライアントに変更を加えたり、既定の設定値を設定したりすることができます。App-V 用の ADM テンプレートは、グループ ポリシーの設定を使用して実装されています。

メモ : これらの設定は、新しいグループ ポリシー基本設定 (Windows Server 2008 に組み込まれ、Windows Server 2003 や Windows XP ではアドオンとして使用できる) とは異なります。

グループ ポリシーの設定の種類の詳細については、グループ ポリシー チームのブログでこの点に関する記事を参照してください。

<http://blogs.technet.com/grouppolicy/archive/2008/03/04/gp-policy-vs-preference-vs-gp-preferences.aspx> (英語)

## **設定 (Preference Setting)**

**設定は、クライアントの従来のレジストリ設定を使用してクライアントの設定を構成するために使用されます。設定の 3 つの動作を以下に示します。**

* **レジストリに設定を残します。**GPO が適用されなくなっても、設定値はレジストリに残ります。管理者が設定を削除を担当する場合は、GPO を無効にする前に、これらの値を無効に設定する必要があります。また、設定値を削除する場合、削除した値は、元のアプリケーション構成値に置き換えられません。
* **アプリケーションの構成設定を上書きします。**設定によって、ユーザーが構成したアプリケーションの元の値は上書きされます。設定によって値を上書きする前に、元の値を保持するための確認は行われません。また、既に説明したように、GPO を無効にしても値は削除されません。
* **アプリケーションによって認識されません。**ユーザーがタスクを実行するためのアクセス許可を持っている場合、アプリケーションの設定は、ユーザー インターフェイスまたはレジストリ エディタを使用して変更できます。最も重要な点は、グループ ポリシー エンジンでは、GPO の変更のみが認識され、クライアントで設定値が変更された場合は認識されないことです。つまり、いったん設定が適用された後、ユーザーが構成項目の値を変更した場合、設定は再適用されません。GPO で設定が再適用されるのは、GPO に変更が加えられた場合だけです。

設定を理解することは重要です。App-V ADM テンプレートの設定は、クライアント上のレジストリの設定を置き換え、既存の設定を上書きする可能性があります。ユーザーが、アプリケーションまたはレジストリ編集ツールで、ローカルにレジストリの設定を変更すると、グループ ポリシー ベースの設定は再適用されません。グループ ポリシーが再適用されるのは、変更がグループ ポリシー自体で検出された場合だけです。さらに、管理者はポリシーを削除する前に ADM テンプレートによって適用された設定を無効にする必要があります。

### セットアップの重要な考慮事項

多くの組織では、App-V の ADM テンプレートはグループ ポリシーに読み込まれ、組織の環境用に構成された設定によって変更されます。ADM テンプレートを適用すると、既に App-V Client がインストールされているクライアント コンピュータでは、クライアントの設定が新しいグループ ポリシーの設定によって更新されます。ただし、コンピュータに ADM テンプレートの設定を適用した後に App-V Client をインストールした場合、インストーラは ADM テンプレートの設定にすべての既定の設定を上書きします。これによって、クライアント間で設定に不整合が生じます。

このような状況を回避するために、App-V ADM テンプレートの設定は、クライアントをインストールした後で展開することをお勧めします。この操作は常に可能であるとは限らないので、App-V Client のセットアップで、現在のレジストリ設定が保持されるように構成する必要があります。セットアップのオプションのインストール スイッチによって、クライアントの設定を簡単に管理できます。

**KEEPCURRENTSETTINGS**

このスイッチを指定すると、セットアップは ADM テンプレートの設定によって配置されたレジストリ設定を上書きしません。

例 : 次の 2 つのコマンドは、異なる方法で同じタスク (クライアント コンピュータ上の現在の設定を保持する) を実行しています。

setup.exe /v" KEEPCURRENTSETTINGS=1"

msiexec.exe /i setup.msi KEEPCURRENTSETTINGS=1

メモ : これらのコマンドは、現在のコマンドを保持してクライアントをインストールするために必要な最小限のコマンドです。最初のコマンドの /v は、追加のパラメータを MsiExec に渡すために使用されています。2 番目のコマンドの /i は、ステータス メッセージを表示するために使用されています。

展開のセットアップ設定の管理の詳細については、次のリンク <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=122063> をクリックしてください。

## **App-V Client ADM テンプレートのインストール**

App-V Client ADM テンプレートを使用して設定を展開するには、管理者は以下の手順を実行する必要があります。

1. ADM テンプレートの msi ファイルをダウンロードします。
2. ADM テンプレートをインストールします。
3. ADM テンプレートをグループ ポリシー オブジェクトにインポートします。
4. グループ ポリシー エディタで設定を表示するように構成します。

### ADM テンプレートの msi ファイルのダウンロード

App-V ADM テンプレートを <http://go.microsoft.com/fwlink/?LinkId=121835> からダウンロードします。

### ADM テンプレートのインストール

1. App-V ADM テンプレートの msi ファイルを実行します。
2. セットアップ時に、ADM テンプレートのインストール先を選択します。
3. [完了] をクリックして処理を終了します。

### グループ ポリシー オブジェクトへの ADM テンプレートのインポート

1. グループ ポリシー オブジェクト エディタを開きます。
2. [管理用テンプレート] を右クリックし、[テンプレートの追加と削除] を選択します。
3. [追加] をクリックし、Application Virtualization Client (\*.ADM) ファイルの場所を指定します。

### グループ ポリシー エディタで設定を表示するための構成

**メモ :** この手順は、フィルタを適用して設定をフィルタ処理している場合を除いて、Windows Server 2008 では必要ありません。

1. [管理用テンプレート] を選択します。
2. グループ ポリシー オブジェクト エディタで、 [表示] メニューの [フィルタ] をクリックします。
3. [完全に管理されているポリシー設定のみ表示します] チェック ボックスをオフにし、[OK] をクリックします。

* ADM テンプレートをインポートし、表示の構成を変更すると、クライアントの設定がグループ ポリシー オブジェクト エディタに表示されます。

## **Application Virtualization Client 4.5 ADM テンプレートのレジストリ設定**

App-V ADM テンプレートによって、管理者はクライアントの 37 個のレジストリ設定を構成できます。次の表は、これらの設定を、説明および既定値 (存在する場合) と共に分類して一覧にしたものです。カテゴリは、グループ ポリシー エディタで表示したときに、ADM テンプレートの一般的な設定をグループ化するために使用されています。次の表には、App-V Client ADM テンプレートを使用して制御できるレジストリ設定の一覧が表示されています。既定値は、Microsoft Application Virtualization Terminal Services Client (TS と表示) または Application Virtualization Terminal Windows Desktop Client (WD と表示) の標準的なインストールに基づいています。


### カテゴリ : 通信

**レジストリ パス :** HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\SoftGrid\4.5\Client\Configuration

| ADM テンプレートのオプション | レジストリ値の名前 | 種類 | 既定値(10 進値) | 説明 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| Allow Independent File Streaming | AllowIndependentFileStreaming | DWORD | 0 (WD/TS) | クライアントの構成 (および ASR) に関係なく、ファイルからのストリーミングを許可するかどうかを指定します。False の場合、OSD HREF または ASR にファイル パスが含まれている場合でも、トランスポートでファイルからのストリーミングは許可されません。0 = False (既定値)1 = True |
| Application Source Root | ApplicationSourceRoot | 文字列 | 該当なし | アプリケーションの HREF 要素 (ソースの場所など) の OSD CODEBASE のオーバーライドを可能にするレジストリ キーです。これによって、管理者や ESD システムは、トポロジ管理方式に従ってアプリケーションの読み込みを実行できます。Application Source Root では、URL および UNC のパス形式がサポートされます。URL パスの正しい形式は、protocol://servername:[port][/path][/] であり、port と path は省略可能です。ポートを指定していない場合、プロトコルの既定のポートが使用されます。OSD URL の protocol://server:port の部分のみが置き換えられます。ApplicationSourceRoot URL の指定可能な形式の例を以下に示します。rtsps://mainserver:322/prodappshttps://mainserver:443/prodapps汎用名前付け規則 (UNC) パスの正しい形式は \\computername\sharefolder\[folder][\] で、folder は省略可能です。computername には、完全修飾ドメイン名 (FQDN) または IP アドレスを指定でき、sharefolder にはドライブ文字を指定できます。OSD パスの \\computername\sharedfolder またはドライブ文字の部分のみが置き換えられます。ApplicationSourceRoot UNC パスの指定可能な形式の例を以下に示します。\\uncserver\share\\uncserver\share\prodapps  |
| OSD Source Root | OSDSourceRoot | 文字列 | 該当なし | Application Source Root と同様に、OSD Source Root では公開時にアプリケーション パッケージの OSD ファイルを取得するソースの場所を指定できます。OSDSourceRoot で指定できるな形式には、UNC パスと URL (http または https) があります。以下に例を示します。[\\computername\sharefolder\resource](file:///%5C%5Ccomputername%5Csharefolder%5Cresource) または [\\computername\content](file:///%5C%5Ccomputername%5Ccontent)<http://computername/productivity/> または <https://computername/productivity/> |
| Icon Source Root | IconSourceRoot | 文字列 | 該当なし | Application Source Root と同様に、OSD Source Root では公開時にアプリケーション パッケージの OSD ファイルを取得するソースの場所を指定できます。OSDSourceRoot で指定できるな形式には、UNC パスと URL (http または https) があります。以下に例を示します。[\\computername\sharefolder\resource](file:///%5C%5Ccomputername%5Csharefolder%5Cresource) または [\\computername\content](file:///%5C%5Ccomputername%5Ccontent)<http://computername/productivity/> または <https://computername/productivity/> |
| Set Background Loading Triggers | AutoLoadTriggers | DWORD | 5 (WD/TS) | AutoLoad はクライアント実行時ポリシーの構成パラメータで、仮想されたアプリケーションのセカンダリ機能ブロックをバックグラウンドで自動的にクライアントにストリーミングできるようにします。AutoLoadTriggers は、アプリケーションの AutoLoad を開始するイベントを指定するフラグです。AutoLoad は暗黙的にバックグラウンド ストリーミングを使用して、アプリケーションがキャッシュいっぱいに読み込まれるようにします。機能ブロック 1 が最初に読み込まれ、残りの機能ブロックがバックグラウンドで読み込まれるため、フォアグラウンドでの処理 (ユーザーによるアプリケーションの操作など) を実行できるので、体感的に最適なパフォーマンスが提供されます。ビット マスク値:(0) Never: ビットは設定されず (値は 0)、トリガが設定されないので、自動読み込みは実行されません。(1) OnLaunch: ユーザーがアプリケーションを起動したときにバックグラウンドでの読み込みを実行します。(2) OnRefresh: 公開の更新が発生したときに常にバックグラウンドでの読み込みを実行します。(4) OnLogin: ユーザーのログイン時にすべてのアプリケーションのバックグラウンドでの読み込みを実行します。既定値 : 0x5 (OnLaunch|OnLogin) |
| Specify What to Load in Background | AutoLoadTarget | DWORD | 1 (WD/TS) | このパラメータは、特定の AutoLoadTriggers の発生時に自動的に読み込まれる対象を指定します。ビット マスク値 :(0) None - 設定されているトリガに関係なく自動読み込みを実行しません。(1) PreviouslyUsed (既定値) - AutoLoad トリガが有効である場合、以前にユーザーがパッケージ内の少なくとも 1 つのアプリケーションを使用 (起動やプリキャッシュなど) したことがあるパッケージのみが読み込まれます。この値は、"重要な" アプリケーションを対象としています。つまり、以前に使用されたことがあるアプリケーションは、起動されたことがないアプリケーションよりもユーザーにとって重要であるということです。(2) All - 任意の AutoLoad トリガが有効である場合、以前に起動したことがあるかどうかに関係なく、パッケージ内のすべてのアプリケーション (パッケージごと) またはすべてのパッケージ (クライアントに対して設定) が自動的に読み込まれます。 |

**レジストリ パス :** HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\SoftGrid\4.5\Client\Network

| ADM テンプレートのオプション | レジストリ値の名前 | 種類 | 既定値(10 進値) | 説明 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| Disconnected Operations: Online | Online | DWORD | 1 (WD/TS) | オフライン モードを有効または無効にします。0 に設定されている場合、クライアントは App-V Management Server サーバーや公開サーバーと通信しません。切断時動作では、App-V Client は App-V Management Server に接続されていない場合でも、読み込まれたアプリケーションを起動できます。オフライン モードでは、App-V Client は App-V Management Server や公開サーバーへの接続を試行しません。オフラインで作業できるようにするには、切断時動作を許可する必要があります。既定値は 1 で有効 (オンライン) を表します。0 は無効 (オフライン) を表します。 |
| Disconnected Operations: Allow | AllowDisconnectedOperation | DWORD | 1 (WD/TS) | 切断時動作を有効または無効にします。既定値は 1 で有効を表します。0 は無効を表します。切断時動作では、App-V Client は App-V Management Server に接続されていない場合でも、読み込まれたアプリケーションを起動できます。  |
| Disconnected Operations: Fast Connect Timeout | FastConnectTimeout | DWORD | 1000 (WD/TS) | この値は、切断時動作モードに移行するタイミングを決定するために、TCP 接続のタイムアウトをミリ秒単位で指定します。この値を使用して、ConnectTimeout の既定値 20s (App-V のネットワーク トランザクションの接続タイムアウト) やシステムの TCP タイムアウトの最大 25s をオーバーライドすることができます。これによって、クライアントはすばやく切断時動作モードに移行します。この値は、次回の接続に適用されます。 |
| Disconnected Operations: Limit Disconnected Operations | LimitDisconnectedOperationDOTimeoutMinutes | DWORDDWORD | 1 (WD/TS)129600 (WD/TS) | 接続時動作モードを無期限に使用できるか、一定の期間のみ使用できるかを指定します。オフラインで作業できるようにするには、Allow Disconnected Operations も有効にする必要があります。 (0x0) False: 無期限の切断時動作を許可します。(0x1) True: 切断時動作を、DOTimeoutMinutes 設定で指定された分数に制限します。有効な値は 1 ～ 999999 日です。既定値は 90 日です。 |

**レジストリ パス :** HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\MICROSOFT\SOFTGRID\4.5\Client\Reporting

| ADM テンプレートのオプション | レジストリ値の名前 | 種類 | 既定値(10 進値) | 説明 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| Reporting: Data Cache Limits | DataCacheLimit | DWORD | 20 (WD/TS) | この値は、レポート情報を格納する XML キャッシュの最大サイズをメガバイト (MB) 単位で指定します。既定値は 20 MB です。このサイズは、メモリ内のキャッシュに適用されます。この制限値に達すると、ログ ファイルは "ロール オーバー" されます。新しいレコードが一覧の最後に追加されると、一覧の最初にある最も古いレコードが削除され、空き領域が作成されます。警告は最初に発生したときにクライアント ログとイベント ログに記録され、送信時にキャッシュが正常に消去され、ログが再びいっぱいになるまでは、再び記録されません。 |
| Reporting: Data Block Size | DataBlockSize | DWORD | 65536 (WD/TS) | この値は、公開の更新時に、ログのサイズが大きくなり、永続的に送信エラーが発生するのを回避するために、一度にサーバーに送信する最大サイズをバイト単位で指定します。既定値は 65536 です。レポート データをサーバーに送信する場合、XML データのブロック サイズ (バイト単位) 以下のアプリケーション レコードのブロックが一度に 1 つずつキャッシュから削除され、サーバーに送信されます。各ブロックには一般的なクライアント データとグローバル パッケージ リスト データが前に付加されますが、これらはブロック サイズの計算で考慮されません。パッケージ リストのサイズが非常に大きくなると、低帯域幅の接続や低信頼性の接続で送信エラーが発生する可能性があります。 |

### カテゴリ : アクセス許可

**レジストリ パス :** HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\SoftGrid\4.5\Client\Permissions

| ADM テンプレートのオプション | レジストリ値の名前 | 種類 | 既定値(10 進値) | 説明 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| Add Application | AddApp | DWORD | 0 (WD/TS) | ユーザーが明示的にアプリケーションを追加できるかどうかを指定します。これは、公開の更新によって追加されたアプリケーションには影響しません。また、まだ追加されていないアプリケーションをユーザーが起動 (し、暗黙的に追加) することも妨げられません。設定可能な値は次のとおりです。(0) False (既定値)(1) True |
| Change Cache Size | ChangeCacheSize | DWORD | 0 (WD/TS) | ユーザーがキャッシュ サイズを変更できるかどうかを指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False (既定値)(1) True |
| Change File System Drive | ChangeFSDrive | DWORD | 0 (WD/TS) | ユーザーがファイル システム ドライブとして別のドライブ文字を使用することを選択できるかどうかを指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False (既定値)(1) True |
| Change Log Settings | ChangeLogSettings | DWORD | 0 (WD/TS) | ユーザーがユーザー インターフェイスを使用して、ログのレベルを変更したり、ログの保存場所を変更したり、ログをリセットしたりできるかどうかを指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False (既定値)(1) True |
| Permission to Load Application | LoadApp | DWORD | 1 (WD)0 (TS) | ユーザーがアプリケーションをファイル システムのキャッシュに読み込むことができるかどうかを指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False(1) True |
| Permission to Unload Applications | UnloadApp | DWORD | 0 (WD/TS) | ユーザーがアプリケーションをファイル システムのキャッシュからアンロードできるかどうかを指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False (既定値)(1) True |
| Permission to Lock Applications | LockApp | DWORD | 1 (WD)0 (TS) | ユーザーがファイル システムのキャッシュでアプリケーションをロックまたはロック解除できるかどうかを指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False(1) True |
| Permission to Manage File Type Associations | ManageTypes | DWORD | 1 (WD)0 (TS) | ユーザーがグローバルではなく個人用のファイルの種類の関連付けを追加、編集、または削除できるかどうかを指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False(1) True |
| Permission to Trigger Publishing Refresh | RefreshServer | DWORD | 1 (WD)0 (TS) | ユーザーが MIME サーバーからの更新をトリガできるかどうかを指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False(1) True |
| Permission to Modify the OSD File | UpdateOSDFile | DWORD | 0 (WD/TS) | ユーザーが変更された OSD ファイルを使用できるかどうかを指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False (既定値)(1) True |
| Permission to Import Applications | ImportApp | DWORD | 0 (WD/TS) | ユーザーがアプリケーションをファイル システムのキャッシュにインポートできるかどうかを指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False (既定値)(1) True |
| Permission to Change Publishing Refresh Settings | ChangeRefreshSettings | DWORD | 0 (WD/TS) | ユーザーがサーバーの公開の更新 (ログイン時に更新および定期的な更新) を変更できるかどうかを指定します。ユーザーがサーバーの他の設定 (パス、ホストなど) を変更できるという意味ではありません。設定可能な値は次のとおりです。(0) False (既定値)(1) True |
| Permission to Manage Publishing Servers | ManageServers | DWORD | 0 (WD/TS) | ユーザーがサーバーを追加、編集、または削除できるかどうかを指定します。ユーザーが更新の設定を編集できるかどうかには影響しません。この設定は、ChangeRefreshSettings のアクセス許可によって制御されます。設定可能な値は次のとおりです。(0) False (既定値)(1) True |
| Permission to Publish Shortcuts | PublishShortcut | DWORD | 0 (WD/TS) | ユーザーがユーザー インターフェイスを使用してショートカットを公開できるかどうかを指定します。これは、公開の更新時に公開されたショートカットには影響しません。設定可能な値は次のとおりです。(0) False (既定値)(1) True |
| Permission to View all Applications | ViewAllApplications  | DWORD | 0 (WD/TS) | ユーザーがユーザー インターフェイスを使用してすべてのアプリケーションを表示できるか、または自分のアプリケーションのみを表示できるかを指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False (既定値)(1) True |
| Permission to Repair Applications | RepairApp | DWORD | 1 (WD/TS) | ユーザーが SFTMime または App-V Client Management Console でアプリケーションに対して Repair アクションを使用できるかどうかを指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False(1) True (既定値) |
| Permission to Clear Applications | ClearApp | DWORD | 1 (WD/TS) | ユーザーが App-V Client Management Console でアプリケーションに対して Clear アクションを使用できるかどうか、または SFTMime で /COMPLETE フラグを使用せずに REMOVE 動詞を使用できるかどうか指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False(1) True (既定値) |
| Permission to Delete Applications | DeleteApp | DWORD | 0 (WD/TS) | ユーザーが App-V Client Management Console でアプリケーションに対して Delete アクションを使用できるかどうか、または SFTMime で /COMPLETE フラグを使用して REMOVE 動詞を使用できるかどうか指定します。設定可能な値は次のとおりです。(0) False (既定値)(1) True |
| Permission to Toggle into Offline Mode | ToggleOfflineMode | DWORD | 1 (WD)0 (TS) | ユーザーがオフライン モードでのクライアントの実行を選択することを許可します。オフライン モードでは、Application Virtualization クライアントは App-V Server に接続されていない場合でも、読み込まれたアプリケーションを起動できます。設定可能な値は次のとおりです。(0) False(1) True |

### カテゴリ : クライアント インターフェイス

**レジストリ パス :** HKEY\_LOCAL\_MACHINE\Software\Microsoft\SoftGrid\4.5\Client\CustomSettings

| ADM テンプレートのオプション | レジストリ値の名前 | 種類 | 既定値(10 進値) | 説明 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| Tray: Always Run | TrayVisibility | DWORD | 0 (WD/TS) | 起動時にトレイを実行し、最後のアプリケーションがシャットダウンした後も実行し続けるか (1)、またはアプリケーションやオプションが使用されている場合にのみ実行するか (0) を指定します。次回トレイによって管理される対象 (メッセージ履歴ダイアログ、オプション ダイアログ、アプリケーション) が閉じたときに適用されます。 |
| Tray: Success Display Delay | TraySuccessDelay | DWORD | 10 (WD/TS) | トレイが "Word が起動されました" や "Excel が終了されました" などの成功のメッセージを表示する時間を秒単位で指定します。0 の場合、メッセージは表示されません。次回アプリケーションを起動するか、読み込みを開始したときに適用されます。秒単位で設定します。既定値は 10 秒です。0 に設定すると、エラー以外のメッセージは表示されません。  |
| Tray: Show Refresh | TrayShowRefresh | DWORD\_ | 1 (WD)0 (TS) | このキーが存在し、1 に設定されている場合、[アプリケーションの更新] メニュー項目がトレイのメニューに表示され、ユーザーがアクセスできます。トレイのメニューのポップアップ時に適用されます。 |
| Tray: Show Load | TrayShowLoad | DWORD | 1 (WD)0 (TS) | このキーが存在し、1 に設定されている場合、[アプリケーションの読み込み] メニュー項目がトレイのメニューに表示され、ユーザーがアクセスできます。トレイのメニューのポップアップ時に適用されます。 |

**レジストリ パス :** HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Microsoft\SoftGrid\4.5\Client\Configuration

| ADM テンプレートのオプション | レジストリ値の名前 | 種類 | 既定値(10 進値) | 説明 |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| Log Roll-over Count | LogRolloverCount | DWORD | 4 (WD/TS) | リセット時に保持しておく App-V ログのバックアップ コピーの数を定義します。有効な範囲は 0 ～ 9999 です。既定値は 4 です。この値が 0 の場合、コピーは保持されません。 |
| Log Max Size | LogMaxSize | DWORD | 256 (WD/TS) | ログ ファイルをリセットする前の最大サイズをメガバイト単位で定義します。既定値は 256 MB です。ログがこのサイズに達すると、次回書き込みが試行されたときに、ログは強制的にリセットされます。 |

# **まとめ**

ADM テンプレートを使用して企業内の App-V Client を管理することによって、管理者は意図したとおりの構成でクライアントの設定を構成できます。これによって、組織では App-V インフラストラクチャのサポートを向上させることができます。ADM テンプレートの設定が展開された後、クライアントを展開するための継続的な戦略を計画する場合は、十分に検討する必要があります。

## **関連情報**

グループ ポリシーの詳細については、以下のリンクを参照してください。
<http://technet.microsoft.com/en-us/windowsserver/grouppolicy/default.aspx>